

巣における組織崩壊によって生成された変性自己蛋白、細菌および真菌成分、毒素などが抗原と考えられる。感作されたこれらの抗原が、原発巣からの血行性播種、原発巣の掻破による播種、病変を掻破した手によって抗原が経口的に摂取される、などの経路によって全身に散布されることで生じる。原発巣となる疾患は、貨幣状湿疹、うっ滞性皮膚炎、接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、足白癬^{あしはくせん}などがある。

治療

原発巣の治療とともに、ステロイド外用薬と抗ヒスタミン薬の内服が第一選択である。

6. うっ滞性皮膚炎 stasis dermatitis ★

Essence

- 慢性静脈不全（下肢静脈瘤）や静脈血流のうっ滞を基盤にして、下腿に浮腫性紅斑や湿疹局面を形成する。
- 立ち仕事をする人や高齢者、とくに肥満を伴う女性に好発。
- 自家感作性皮膚炎（前項）に移行しうる。
- 治療は通常の湿疹に準じるとともに弾性包帯の使用、あるいは静脈瘤に対する外科的治療などでうっ滞を改善することが重要。

症状

下腿の下1/3、とくに内外踝^か上方に浮腫性紅斑が生じ、次第に暗紅褐色の落屑性湿疹局面や色素沈着をきたす。慢性化すると白色調の萎縮性局面（atrophie blanche）や皮膚硬化〔硬化性脂肪織炎（sclerosing panniculitis）〕を呈する（図7.15）。軽微な外傷で容易に潰瘍を形成し、さらには使用した消毒薬や外用薬（主剤の抗菌薬などのほか、添加剤・基剤なども原因となる）によって接触皮膚炎を合併しうる。このとき漿液性丘疹が集簇し、しばしば自家感作性皮膚炎に移行する。

疫学

長時間の立ち仕事を職業とする人に多く認められ、女性では妊娠などを契機に生じた下肢静脈瘤に合併することがある。

病因

慢性静脈不全（11章 p.187 参照）によって皮膚血管内のうっ血が生じ、真皮上層に存在する毛細血管^{けいてい}係蹄から出血をきたす。これにより組織にヘモジデリンが沈着、皮膚は黒褐色調と

図7.14② 自家感作性皮膚炎（autosensitization dermatitis）